

# 周年出荷栽培に向けた夏秋スプレーギクの生産振興

～ 沖永良部島から日持ちの良いスプレーギクを全国へ ～

所属名 : 沖永良部事務所農業普及課

発表者名 : 古園郁郎

## <活動事例の要旨>

近年、沖永良部では台風強い鉄骨平張施設の整備が進められており、この施設を利用した夏秋スプレーギク（7～9月出荷）栽培への関心が高まっている。このため生産・流通上の課題を整理し、その解決を図った。

一番目の課題は「日持ち（葉の黄化）対策」で、鮮度保持剤（STS剤）＋硬切りにより、葉の黄化が抑制されたり、実需の保管期間が延びたため、早期出荷が可能になり、労力分散に繋がった。次の課題は「沖永良部の夏に適する品種の導入」で、県育成品種の葉持ちが良く、実需者の高評価を得て、主力品種として普及した。

その結果、沖永良部花き専門農協の夏秋スプレーギクは3年間（H27→H30）で、出荷本数約4倍、単価約1.8倍、出荷額約7倍に拡大した。

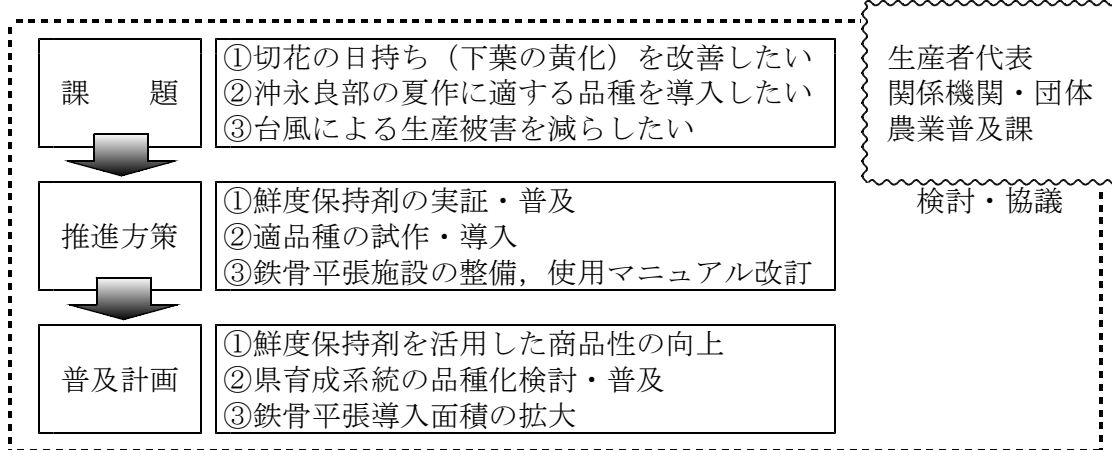
## 1 計画された活動の課題・目標と策定過程

### (1) 課題・目標と設定理由、及び活動の内容と方法

沖永良部のスプレーギクは冬春期の産地であるが、東日本大震災以降の全国的な価格低迷や島内の台風被害で生産が減少している。一方、お盆を中心とする夏期は高単価で推移しており、生産者は栽培を希望していたが、台風被害、日持ちの悪さ等の問題が多かった。

このため、鉄骨平張施設の整備と夏秋スプレーギクの障害となっている「日持ちの改善」「沖永良部の夏に適する品種の導入」を課題として、夏秋スプレーギクの生産振興に取り組んだ。また、調査研究に位置づけている鮮度保持剤の実証・普及や適品種の導入、鉄骨平張施設の整備を研究機関、メーカー等と連携して実施した。

### (2) 計画の策定過程



鮮度保持剤の実証



現地検討(夏秋マム研究会)



整備が進む鉄骨平張施設

## 2 普及活動の内容

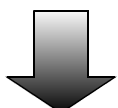
### (1) 活動の経過

課題	①日持ち対策 ②沖永良部の夏に適する品種の導入 ③鉄骨平張の整備
----	----------------------------------

実証	①鮮度保持剤の検証	①農研機構，鮮度保持メーカー，大手量販店と連携
	②適品種の実証	②県育成品種の現地適応性実証
	③マニュアル改訂	③キク等の台風時停電等対策マニュアルの改訂



普及	普及活動の展開	①夏秋マム研究会での講習会，現地検討会の実施 専門講師を招聘した沖永良部花きシンポジウムの開催 ②キク生産者を含めた品種現地検討会 ③マニュアル等を活用した台風時対策指導，拡大支援
----	---------	---



実績	技術等の導入	①STS剤（＋硬切り）が夏秋スプレーギクに全面普及 ②適品種（サザンサマーピンク）の普及 ③鉄骨平張施設の拡大（3年間で4ha拡大，現在12ha）
----	--------	---

### (2) 指導・支援の体制

夏秋マム研究会(重点支援農家)を対象に各種実証・検討を行い，キク部会，地域のスプレーギク生産者への波及を図っている。実証には国・県の研究機関，鮮度保持メーカー，実需者(切花量販店)などと連携して取り組んでいる。

## 3 普及活動の成果

### (1) 課題及び目標の達成状況とその要因

- ア 鮮度保持剤（STS剤）＋硬切りの導入により市場から日持ちで高い評価を受けた。早期出荷が可能になり出荷労力の分散が図られた。
- イ 日持ちが良く，開花遅延の少ない県育成品種が普及し，安定出荷により単価が向上した。
- ウ 鉄骨平張施設や使用マニュアルの活用により台風被害が減り，安定生産に繋がった。

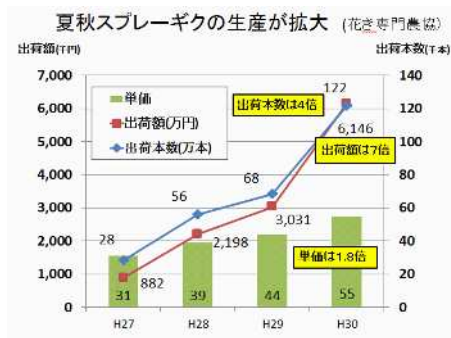
- エ 夏秋マム研究会の実証・普及の取組により規模拡大や単価アップに繋がった。
- オ 沖永良部花き専門農協の夏秋スプレーギクが，3年間で出荷本数4倍(28万本→120万本)，単価1.8倍(33円→55円)，出荷額7倍(880万円→6,100万円)に拡大。

### (2) 活動に対する生産者・農家の評価

鮮度保持技術や県育成品種の実証・普及活動により，沖永良部産の夏秋スプレーギクが，日持ちで非常に高い評価が得られ，生産者の自信や所得向上に繋がった。

### (3) 地域農業振興への貢献

- ア 鮮度保持技術実証の取組が，テッポウユリやトルコギキョウなどにも波及し，日持ち(葉持ち)の良い「切り花産地」としての評価が高まることが期待される。
- イ 夏場の換金作物(収入源)が確保でき，地域の所得向上にも貢献した。



## 4 今後の普及活動に向けて

### (1) 今後の課題

夏場の平張施設での暑さ対策や薬剤散布労力の軽減対策  
年間雇用型経営者向けの周年出荷モデル農家の育成

### (2) 今後の活用に向けて

輸入品に対抗できる日持ちの良い切り花を周年生産する産地になるよう，今後とも支援に努めたい。